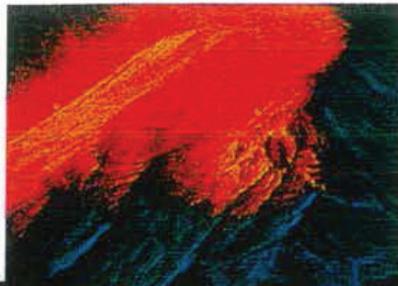


富士宮市教育委員  
小学生高学年の部  
齋藤良真



富士宮市長賞  
高校生・成人の部  
加藤泰史



建設省富士砂防  
工事事務局賞  
小学生の部  
杉山亜沙美

### 第4回「富士山への手紙・絵コンクール」

富士宮市教育委員会・建設省富士砂防工事事務局・社団法人富士宮青年会



(社)富士宮青年会議所理事長賞  
小学生低学年の部  
清 陸



手紙の部で表彰する松村審査委員長



富士宮市長賞  
幼児の部  
増田昭子

**富士砂防だより**

発行  
建設省  
富士砂防工事事務局  
富士宮市三園平1100  
電話(0544)27-5221

## 第4回「富士山への手紙・絵コンクール」表彰式・講演会開催

### 「富士山に学んだこと 富士山と共に生きること 富士山と地域を守ること そして美しい富士山をいつまでも残していくために」

## あなたの心を富士山へ

をテーマにした平成11年度第4回「富士山への手紙・絵コンクール」の表彰式ならびに講演会が、昨年12月5日に富士宮市民文化会館において開催されました。手紙部門と絵部門で幼児から高校・一般まで9部門に分けて募集され、手紙3382点、絵3833点の作品が全国から寄せられ、最優秀賞9点、優秀賞27点、佳作199点、郵便局特別賞1点が選ばれました。

表彰式では、手紙部門の最優秀賞の佐野太紀君、深沢京さん、市川綾子さん、後藤順さん、絵部門の増田昭子さん、清

### 審査委員長松村友視先生の講評

**絵部門**  
普通の富士山にデフォルメしたり、アイデアを加えたりする形にいくつかが類型が見えてきて、その類型からはずれた、一見様やかも「狙い」が見える作品が受賞作に選ばれたと思います。普通に見えて普通でない、富士山をどうとらえるのかという、ただ単に絵画としてではない迫力がある作品が選ばれました。全体として、そろそろユニークさがわかりにくくなってきた感じで、富士山の絵を描くという方法が深まってきて成熟してきたという印象でした。

### 手紙部門

全体に作品のレベルは非常に高かったと思います。なかでも選ばれた作品はどれもすぐく文章がうまいし、仕上がりがよかったです。一つの小説や詩を読んでいるような感じを与えてくれるものでした。情景を感性として切り取ったような作品や、いろいろな「エピソード」の込められた作品が目立ちます。富士山に対する普通の賛辞とか、富士山からエネルギーをもらったとか、富士山に感謝しているとかいったレベルを超えた作品が今回受賞したと思います。



陸君、斎藤良真君、杉山亜沙美さん、加藤泰史さんの9人に松村審査委員長から表彰状と記念品が贈られ、優秀賞の受賞者も表彰されました。このうち手紙部門の最優秀賞4点が朗読され、絵部門の最優秀賞5点はスライド上映されました。入賞作品は冊子にまとめられ、カレンダーの押し絵などで、紹介していきます。表彰式の後には、クマさんこと、ゲージツ家の篠原勝之さんが記念講演し、富士山の自然について語り、来場者を魅了しました。

### 記念講演



クマさんこと「ゲージツ家」の篠原勝之さんにおおいに語る

「鉄を題材としたオブリジェクション」として知られ、絵画、舞台芸術、小説など各方面で活躍している「ゲージツ家」篠原勝之さんが「火と水と土と」をテーマに講演しました。篠原さんは、海外の過酷な自然環境で生活する人々のことを紹介し、「富士山の大沢崩れなど自然は決してやさしいものではないし、人間が自然に優しくするという言葉は、もっと自分の生き方全体を見つめ直して考えるべき」と訴えました。また、音のでるオブジェ創作のエピソードを交え「物を耳で見よう」としたり、形から聞こえる何かを自然から感じ取ろうとすると、違ったものが学べると思う」と会場の聴衆や入賞者たちに熱く語りかけました。

# 周年記念事業のまとめ

# つめ、学び、 人々と語った1999年



富士山の直轄砂防事業は、昭和44年に大沢川扇状地での工事に着手してから、平成11年で満30年を迎えました。

平成11年5月に発足した「富士山直轄砂防30周年記念事業実行委員会」（富士砂防工事事務所と富士宮市、富士市、芝川町、静岡県）では、昭和45年の富士砂防工事事務所開設から30周年を迎える平成12年に向け、これまでの事業の成果をまとめ、一般の方々にもわかりやすく伝えるとともに、多方面から意見、評価をいただき今後の事業の方向性を検討する目的で、記念事業を実施しています。

平成11年度に実施した主な行事を紹介いたします。

H11. 11月 17日(水)

## 30周年記念式典・シンポジウムの開催

今年度の中心行事に  
1000名の聴衆が参加



第2部シンポジウム

青木玉さん(長女)、水山高久さん(京都大学教授・昭和52年富士砂防勤務)の富士山にゆかりのあるパネリストが出演しました。各氏はそれぞれの専門分野から富士山の様々な実態と富士山への想いを語り、今後の事業展開に関する活発な意見交換や提言がなされました。

第一部のシンポジウムは、池谷浩建設省砂防部長をコーディネーターに、今井通子さん(医師・登山家・富士山大沢崩れ研究会メンバー・御中道ぐるっと360度塾長)、若林淳之さん(静岡大学名誉教授・同研究会メンバー・富士宮市在住)、山村レイコさん(国際ライナー・エッセイスト・朝霧高原在住)、青木奈緒さん(エッセイスト、青木玉さん長女)、水山高久さん(京都大学教授・昭和52年富士砂防勤務)の富士山にゆかりのあるパネリストが出演しました。各氏はそれぞれの専門分野から富士山の様々な実態と富士山への想いを語り、今後の事業展開に関する活発な意見交換や提言がなされました。



講演する青木玉さん

H11.9. 11(土) 12日(日)

## 富士山御中道「ぐるっと360度」実施

今井通子さんと  
学んだ富士山の自然と植生



源頭部調査工事現場にて

富士山の中腹五合目付近をぐるりと一周する「御中道」を歩くユニークな登山を企画しました。全国から応募した方々や招待者は約200人、塾長に登山家の今井通子さんを招き、富士山山岳会をはじめ、環境庁、林野庁、静岡大学等の協力を得て、1泊2日のスケジュールで実施しました。「御中道」は崩壊や落石が激しい大沢川で昭和52年に通行止めになってから、一周できなくなっていました。源頭部調査工事現場のルートを使えば一時的な通行は可能と判断され、実施しました。

途中では森林教室、砂防教室、植生教室、御中道教室、火山教室、雪崩教室が開かれ、参加者は富士山の実態を学び自然を体験するとともに、各溪流の上流部の荒廃状況や森林の現状を認識しました。

行事名	実施日	参加人数	実施場所
30周年記念式典・シンポジウム	11.7(水)	1,020名	富士宮市民文化会館
富士山御中道「ぐるっと歩こう、360度」	9.11(土) 9.12(日)	201名	富士山御中道
現場見学及び有識者等の現地案内 ①大沢崩れと御中道 ②大沢扇状地等砂防施設	随時	① 24件 369名 ② 31件 621名	
富士山大沢崩れと御中道見学会 (一般公募)	7.22(木) 8.18(水) 9.17(金) 10.14(木)	32名 33名 31名 35名	富士山大沢崩れと御中道
土砂災害防止月間行事 「一日事務所長」山村レイコさん招く SABOコミュニティーホール「あまつばめ」オープン 広報車の管内巡回と街頭キャンペーン	6.16(水)		富士砂防工事事務所 特別養護老人ホーム「しらいと」
砂防フェスティバル'99しずおか	6.20(日)	約1,000名	静岡青葉公園広場
フーチャン公園花植え	6.15(水)	70名	澗井川流路工左岸
パネル展	6.4~6.11		新富士駅
大沢扇状地クイズウォーク	8.23(月)	160名	大沢扇状地
「火山防災講習会」	10.16(土)	約400名	富士宮市民文化会館
「富士山への手紙・絵コンクール」表彰式・講演会	12.5(日)	約600名	富士宮市民文化会館

### 富士山直轄砂防

# 富士山を見 富士山を愛する

H11  
6月  
16日(水)

SABOコミュニティーホール  
「あまつばめ」のオープン  
——富士山に学ぶ総合学習の場——

富士砂防工事事務所一階に「あまつばめ」が開館しました。当日は一日事務所長の山村レイコさん(国際フリーライダーで富士宮市在住)をはじめ、関係者が出席し、テープカットを行いました。

富士砂防工事事務所ではこれまで、富士山大沢崩れ、砂防工事等の多くの情報を資料、出版物をはじめ、ホームページなどで発信してきましたが、国内外から多数の来客があることから、土石流監視カメラの現地映像やビデオ、インターネット、パネル、展示品により理解を深める交流の拠点として、ホールを開設しました。



「あまつばめ」でインターネットを体験



「あまつばめ」利用風景(JICA研修)

H11  
7月  
10日

大沢崩れと御中道見学会

7月から10月の各月一回「富士山大沢崩れと御中道見学会」を実施しました。今年度は30周年記念として規模を拡大し、各回につき35名の参加者を抽選し実施しました。参加者の多くは大沢崩れの現状と富士山の豊かな自然を感じました。

この「富士山大沢崩れと御中道見学会」は、富士山の自然の豊かさや砂防事業の必要性を認識していただくことを目的として、平成元年度から計30回実施されています。現在ま

での延べ参加者数は1000名にのぼります。

また、随時行われる現地案内では、国内外の多方面の有識者をはじめ、多くの方々を案内しました。



大沢崩れと御中道見学会

H11  
8月  
23日(月)

大沢扇状地クイズウォークを開催  
——広大な扇状地を体験——

今回が5回目になったクイズウォークを大沢扇状地で実施し、小学生から一般の参加者まで約160人が、砂防や富士山に関するクイズを解きながら歩きました。スパー堤防に作られた縮尺1/1000のミニ富士山での記念撮影や、ペットボトルロケットの打ち上げなどが行われ、参加者は扇状地の広大さを実感していました。また普段は危険で近寄れないバックホーやダンプカーの荷台、ポタン一つで距離も測れる測量器械の操作の体験もしました。

第9床固での昼食時には、マルチビジョンを使った土石流の映像で、砂防事業についての勉強もあり、有意義な一日となりました。



ペットボトルロケットの打上げ



縮尺1/1000のミニ富士山で記念撮影

ハイビジョン映像「崩れ」  
作家の幸田文さんが執筆した随筆集「崩れ」を基に、大沢崩れのハイビジョン映画の製作を行いました。崩れる瞬間の迫力ある映像をとらえたハイビジョンならではの鮮明な映像に、NHKアナウンサー加々美幸子さんの朗読で、富士山大沢崩れの実態を紹介しています。鑑賞希望のかたには、VHSテープに収録したものを貸し出してあります。

30周年記念ポスター作成・配布  
富士山周辺の地形データによる砂防計画の検討を目的として作成された地形解析図を基に、富士山や周辺の山々を立体的に表した大型(Ｂ1サイズ横型)ポスターを製作しました。ポスターは2000部作成され関係機関や各学校に配布しました。また一般の方々の関心も高く、個人で入手希望の方にも配布しました。1月25日現在予想をはるかに上回る700件以上の申し込みがあり、1023枚を配布しました。

# 平成11年度富士砂防工事事務所の事業概要

## 1. 事業概要

景気の本格的回復と新たな発展基盤の確立を図るため、景気浮揚効果が大きい事業、豊かで活力ある21世紀の経済社会の構築に資する事業を中心に、富士砂防工事事務所では、地域経済の実情や地方公共団体の要望等に即しつつ、投資効果の高い事業に重点をおくなど、効果的な執行に務めてきました。

## 2. 総事業費

平成11年度の富士砂防工事事務所所管事業費は、当初事業費に加え「補正予算(予備費)」、「地域戦略プラン推進事業費」、「補正予算(2次)」、「災害復旧事業費」、「災害関連事業費」、と合わせて47億円となり、2年連続の大型予算となりました。

当初事業費	補正予算(予備費)	地域戦略プラン推進事業費	補正予算(2次)	事業費計	災害復旧事業費等
2,745	680	255	862	4,542	192

※当初事業費には調査費を含みます。(単位:百万円)

## 3. 事業内容

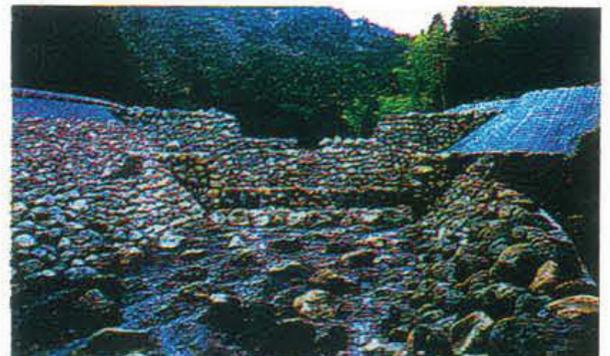
### ①土砂災害対策

#### ○大沢崩れ対策

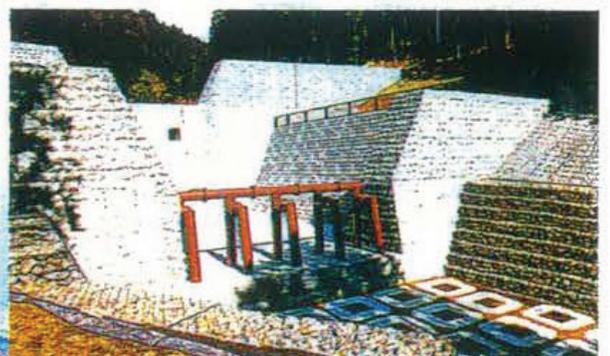
- 下流域の人命、財産を守るため、大沢扇状地において除石工を行なうとともに、河道の安定と堆砂容量確保のため、床固工、樹林帯の整備を実施しています。
- 大沢源頭部では崩壊斜面对策として、「フジアザミ」や「ミヤマハンノキ」等の植生調査や滝保護工等の調査工事を実施しました。

#### ○南西野溪対策

- 富士市須津川の第2ダムが完成し、第1ダムと合わせて、下流市街地や国道、新幹線等重要交通網を土石流災害から守っています。また、ダムは周辺の環境にあわせて巨石積で施工しました。
- 溜野沢、大久保沢、足取川の溪流保全工に着手し、土石流や流木から周辺及び下流域の安全を図るとともに、溪岸の樹木をいかした施設とし、上流の自然と市街地を結ぶ緑の回廊として役割を担っています。
- 猪の窪沈砂地工下流護岸工を扇状地発生巨石を利用して施工しています。また弓沢川では土砂捕捉と流木止を兼ねた第4ダムが完成しました。



須津第2砂防ダム



弓沢第4砂防ダム

### ②地域開発の支援と総合土砂管理対策

- 大沢扇状地から除石した土砂は、公園整備事業や道路事業、宅地開発事業、圃場整備事業、駐車場等の盛土等に活用し、地域の開発に寄与しています。
- 海岸事業と連携し養浜材に活用することにより、コスト縮減、環境負荷の削減、事業の効率的執行を図っています。



猪の窪沈砂地護岸工

# 官庁及び業者間の連携で 労働災害の防止を徹底!

## 「富士山大沢川等工事関係者連絡会議」

平成8年12月6日、長野県と新潟県の県境にある蒲原沢で大規模な土石流災害が発生し社会問題となりました。

富士山大沢川等においても以前は同一溪流内で建設省による砂防工事と、林野庁による治山工事が別々に進められてきましたが、複数の工事が相互に関連する工事現場において、発注者と請負者及び請負業者同士が、安全施工に関して緊密な情報交換を行うと共に非常時における臨機の措置を予め定め、協力して工事を安全かつ円滑に実施することを目的として「富士山大沢川等工事関係者連絡会議」が平成10年10月23日に設立されています。



今年度も定期的に安全パトロールを実施するとともに、6月23日には安全対策の先進事例として長野県姫川支川の「浦川下流床固工群工事における土石流に対する安全対策について」講演会を開催、12月1日には富士労働基準監督署との合同工事安全パトロールを実施するなど、労働災害の防止に万全を期しています。

## スコリア侵食防止工などを実施

### 平成11年度の源頭部調査工事

平成11年度の源頭部調査工事は、滝の保護を目的に、やわらかいスコリア層（火山灰などの噴出物）を守るため「スコリア侵食防止工」を試験的に実施しました。今後土石流などによって磨耗がどの程度かを監視していく予定です。この他に、ロープネット工・洗掘穴埋込工・厚層基材吹付工などを行いました。

調査工事は昭和57年から実施され、過酷な条件にもかかわらず18年間無事故を保っています。



スコリア侵食防止工横断面図



施工中の状況



スコリア層侵食

# 富士山を知ろう 第3回

## 御中道と大沢崩れの変遷

「御中道」とは、富士山中腹5～6合目付近(標高2300m～2800m)を通じて山体を周回する道です。主に富士講の信者が聖地奥ノ院として巡回してきたものです。富士講の信者にとって「御中道巡り」は富士山登頂以上の大行とされ、3回以上の登頂経験者でなければ、この巡拝路に踏み入れることは許されませんでした。御中道の巡拝路は、吉田口登山道6合目の経ヶ岳(標高2386m)付近から右回りに、小御岳神社(現在のスパルライン終点)までの、行程十三里を通例1泊2日で歩いていました。

御中道巡りの中でも、大沢の越場(通過地点)は最大の難所とされ、大沢の崩壊が進行するにつれて、越場の位置も変遷し、一般的には古い順に「一ノ越」、「二ノ越」、「三ノ越」が存在したと考えられています。

江戸時代後期から明治時代初期の大沢の越場は標高2800mの一ノ越を通過していたと推測されます。昭和17年の記録によれば、一ノ越付近の大沢左岸には「不動岩」と呼ば

れる高さ15mの巨石があり、この時点で不動岩は大沢の断崖から約20m離れた場所にありましたが、9年後の昭和26年には断崖すれすれに立っている状態でした。そして、昭和45年の春、崩壊の拡大に伴って大沢に転落してしまいました。崩壊の進行するにしたがって、越場も標高を下げ、2300m付近の二ノ越に移り、さらには一時は三ノ越(二ノ越のバイパス路として、現在の調査工事現場付近を通過していたと思われる)も存在しました。

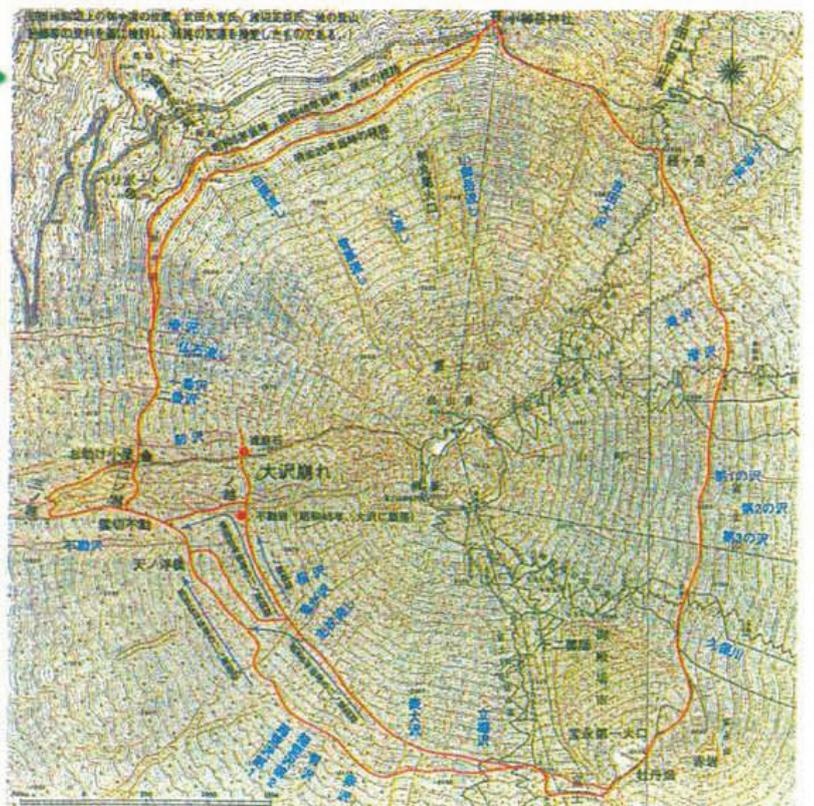
そして昭和47年に数回にわたる土石流の発生により一般通行路の確認も困難になり、昭和50年代に入ってから転落事故が発生し、昭和52年にはついに越場は閉鎖され通行止めになりました。昭和63年修正測量の国土地理院1/25000地形図からは大沢の越場経路は削除されました。

しかし昨年平成11年、砂防工事事務所が実施する源頭部調査工事現場のルートを使えば、一時的な通行は可能と判断され、富士山御中道「ぐるっと歩こう360度」が実施されました。

### 大沢越場の変遷

年代	越場の状況
江戸時代～明治初期	一ノ越(標高2,800m付近)が通行可能であった。
明治20(1887)年頃	一ノ越手前の大沢左岸崖上を標高2,300m付近まで直降し、二ノ越を通行していた。
昭和5(1930)年頃	一ノ越へ至る手前から徐々に高度を下げ、二ノ越(標高2,300m付近)を通行していた。
昭和30～40年代	二ノ越(標高2,300m付近)を通行していた。
昭和45(1970)年頃	一ノ越付近の不動岩が大沢へ崩落。
昭和47(1972)年	土石流で御中道付近に崩壊発生。
昭和50(1975)年頃	転落事故の発生や中村朝次郎氏の開削管理もなくなり、二ノ越の通行が困難になった。
昭和57(1982)年	建設省による、大沢崩れ源頭部に対する調査工事開始。
平成11(1999)年現在	昭和50年代～大沢の越場の再興はない。

### 御中道経路の変遷図



1999年

# 富士砂防工事事務所 10大ニュース

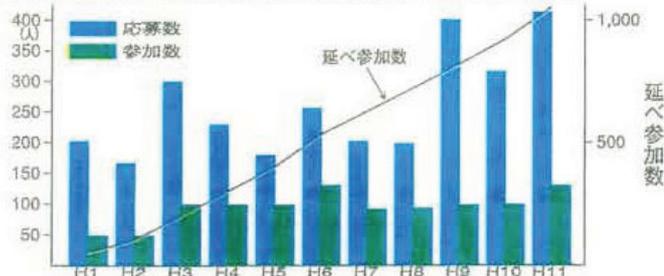
- ① 海岸事業との連携(扇状地堆積土砂を有効利用)で3年連続の全建賞受賞
- ② 富士山直轄砂防30周年記念式典・シンポジウム開催(ハイビジョン映像「崩れ」の公開、青木玉さんの講演、富士山ゆかりの方々から提言をいただく) [2ページ参照]
- ③ 2年連続の大型補正予算、地域戦略プランも含め大規模に事業執行 [4ページ参照]
- ④ 用地懸案事項解決する(ストックヤード用地取得、砂沢砂防ダムの用地測量着手)  
—地権者の皆様、ご協力ありがとうございました—
- ⑤ 富士山御中道「ぐるっと歩こう、360度」開催(塾長に今井通子さんを招き、22年ぶりに御中道を一周) [2ページ参照]
- ⑥ 「火山防災講習会」開催(伊藤和明氏の基調講演と池谷建設省砂防部長や土静岡大学名誉教授によるパネルディスカッションで活火山としての富士山を認識)
- ⑦ 大沢川源頭部調査工事「滝保護工」に着手(18年間無事故) [5ページ参照]
- ⑧ 「富士山砂防ボランティア協会」発足  
—一般の方々からも入会の申込みをいただき、3月14日現在、40名の組織になりました。
- ⑨ 土砂災害防止月間で「一日事務所長」に山村レイコさんを招き、「SABOコミュニティホールあまつばめ」をオープン [3ページ参照]
- ⑩ 巨石利用した「須津第1砂防ダム」完成 [関連4ページ]



## 一次点

### 「富士山大沢崩れと御中道見学会」

平成元年の第1回実施から参加者通算1,000名を突破



## 一番外

第49回白糸駅伝に6年ぶりの参加。

155チーム中122位と健闘。

速報!!

※第50回(平成12年2月13日/169チーム出場)は2チーム参加

区	区間	累計距離	富士砂防A		富士砂防B		沼津工事	
			走者	記録	走者	記録	走者	記録
1	5.4	5.4	花岡正明	93	植野利康	167	太田富夫	148
2	4.9	10.3	高木徳至	132	中森裕也	166	細川英昭	133
3	5.4	15.7	足立龍樹	135	田中浩亮	164	佐々木亮介	149
4	6.6	22.3	小川 浩	142	寺田和久	168	川島伸平	152
5	5.2	27.5	岩田幸男	148	佐野 庸	166	遠藤重由	149
6	5.4	32.9	中戸真一	141	山崎順治	167	黒田雅司	144
時 間			2:31:00		2:54:51		2:31:16	

## 富士山を数字でみると。

富士山の標高は、正確にいうと3,775.6m、これを四捨五入して3,776m。そこで富士山をいろいろな角度から数字で見よう。

まず広さ。山麓は最大44km、南北は38kmの楕円形をしている。その周囲は約153kmに達し、面積は約1,200km<sup>2</sup>もある。

山頂の周囲は3km、体積は約1,400km<sup>3</sup>になる。このうち海拔1,000mまでが約1,200km<sup>3</sup>で、全体の80%以上を占めている。

富士山の重さは、誰が、どのように測ったかはわからないが、およそ1,000億tと推定されている。

